



ちよつとしたこと、話してみてください。
安心して暮らせる幸せを一緒に作りましょう。

山都町民生・児童委員協議会会長
滝口 美智子さん（下市）

民生委員の訪問を受ける
財津 靖さん（下市）

山都町の未来図～山都町民生委員・児童委員～

山都町は、9月30日時点で、高齢者の一人暮らし世帯が1,803戸、高齢者のみの世帯が1,275戸（一人暮らし除く）、高齢化率は48.6%と県内で2番目の高さで、高齢化が急速に進んでいます。また、過疎化や核家族化、地域内のつながりの希薄化など、地域社会や家族の姿が大きく変化し、様々な生活課題、地域課題が複雑化しています。

そのような中で、山都町民生委員・児童委員（矢部支部39名、清和支部11名、蘇陽支部13名、合計63名）は、「住民の立場に立った相談・支援者」として、地域住民の悩みや不安を受け止め、適切な支援を受けることができるよう、役場や社会福祉協議会等との「つなぎ役（橋渡し役）」として活動されています。平時には、高齢者や障がい者の安否確認・見守りや子どもたちへの声かけを行ったり、子育ての悩みや体調面の不安、介護の苦勞、経済的困窮など生活上の心配ごとなどの様々な相談に応じます。また、災害時に避難の支援を必要とする方（避難行動要支援者）の把握や、避難所における生活支援等の役割も期待されています。一方で、「悩みや心配ごとがあるが、委員の方に気軽に相談していいのか」、「相談したいが秘密は守られるのか」、「どんな人たちが委員をされているのか」という声もあります。

山都町民生委員・児童委員協議会会長の滝口美智子さん（下市）は、民生委員・児童委員について「自分だったらどうするかを考えて相手に伝え、相談事を関係機関へ的確につなぎ、解決方策へ導くことが役割だと思います。そして委員同士の助け合い・協力も大事にしています。自分も老いた後にお世話になる事なので、その時の土台作りができればいいなと思い活動しています。」と話されるように、「好きな地域のために」という思いを持ち活動されています。

今回の未来図では、山都町の地域福祉を支える民生委員・児童委員の方々がどのような思いを持ち、どのような活動をされているのか紹介します。

役員の皆さんにお話を伺いました



協議会会長
滝口 美智子さん
(下市)



協議会書記
田中 耕治さん
(城平)



協議会会計
本田 節美さん
(白小野)

民生委員として日々の活動で

心掛けていることは何ですか？

坂本さん

「訪問を行い、声掛け、会話をして信頼関係を築き、困り事などがあつたら、解決に導く手助けをすることが民生委員の仕事として大切なことだと思います。皆さん話をした後には「すーっとした」と言ってくれます。これらの活動を通して誰かが見守ってくれていると安心してほしいです。ただ子どもさんがいらつしやる場合は、まずは子どもさんへの相談を促します。民生委員が何でもしてしまうと家庭内がぎくしゃくしてしまう場合があります。私が対応してきた中では子どもさんに連絡が取れたら解決しました。心配事や不安なく暮らせることは幸せなことだと思うので、そこを目指して活動しています。」

田中さん

「今年の4月に就任し、コロナの影響で訪問活動が中々できませんが、外で会った際に、気軽に声を掛けてもらえるよう、話し

やすい雰囲気づくりを普段から心掛けています。」

中川さん

「集落内では色々とお互いに状況や事情を分かっている部分もありますが、密接しているからこそ守秘義務に一番気をつけています。委員として活動するうえで一番大事な事だと思っています。」

大濱さん

「相手の方に合わせて訪問する時間帯や天気に気をつけています。また話をする際も1対1でいいか、ご夫婦そろっていた方がいいか、子どもさんも交えた方がいいかなど、相手に合わせて話をする状況に気をつけています。」

どんな地域にしたいですか？

滝口会長

「二人暮らしのお宅に、訪問販売が来るようになった際、話を聞いて不要なもの役場を通して消費生活相談室に相談しました。民生

委員も毎回業者の訪問に立ち会えませんが、近所の方々から「また来ている」と連絡が来たり、立ち会ってくださるなど協力体制ができたおかげで、不要な買い物を防げるようになりました。

「近所同士の日常会話の中での情報共有など、今は地域でコミュニケーションが取れていて高齢者の見守りもできていると思います。ただ、地域の高齢化や親と子が縁遠くなってきている現実もあるので、これからも民生委員だけではなく、地域内の住民みなで見守りや助け合いができるように、地域の縁側作りができたらいいなと思います。」

本田さん

「地域で安心して暮らしていける生活ができれば一番いいと思います。隣近所で声を掛け合いながら、見守りや助け合いができる地域で、ずっと暮らしていける。このことが一番幸せかなと思います。」

中川さん

「私が担当している地域は町内で高齢化率が

一番高い地域ですが、隣近所、集落内でお互いに助け合って生活されています。道路沿いの草刈りや地域の行事も規模や回数は減りましたが、できる事を無理しない範囲で続けて、集落を維持されています。この互助の精神をこれからも継続していけたらいいなと思っています。」

福祉課から

民生委員・児童委員の皆さまには、本町が推進している地域福祉の発展にお力添えいただき心から感謝しております。

民生委員・児童委員の活動には、地域の実態把握、相談、情報提供、連絡通報、調整、生活支援、意見具申の7つのはたらきがあります。この7つのはたらきが、私たちの住む山都町を安心安全な町にするともに、幸せに暮らせる町づくりにもつながっています。困りごとや悩み等ありましたら、適切な支援が受けられるよう、お近くの民生委員・児童委員にご相談ください。

役員の皆さんにお話を伺いました



矢部支部支部長
中川 忠久さん
(津留)



清和支部支部長
大濱 一光さん
(飯屋)



蘇陽支部支部長
坂本 昭則さん
(方ヶ野)



地域活動に参加し、普段からコミュニケーションをとることを心がけていらっしゃいます。住民の方々とおしゃべりしながら、心配事や困りごとなどの聞き取りをされています。



道路の草刈り等をはじめ、福祉施設での草刈りや掃除の手伝いなど、施設の職員と利用者だけでは行うのが難しい部分を、活動の一環として支援されています。



児童・生徒が安全に登校できるよう、学校と協力して登校見守り活動をされています。主任児童委員の方は、見守りを行いながら児童と一緒に歩き、声掛けもされています。

民生委員さんは

どんな存在ですか？

財津 靖さん (下市)

「庭先の水道管から漏水し水が出てくるようになり、どうしたらよいか分からず、民生委員の滝口さんに相談しました。役場とのやり取りや、修理工事が終わるまで数日おきに溜まった水の掃き出しをしてくださり、とても助かりました。若いころと違い、社会とのつながりも希薄になり、どこに連絡をすればいいか分からなかったのですが、とても助かりました。」

子ども達は市内にいて、たまに様子を見に来てくれますが、やはり身近に話を聞いてくれる、相談に乗ってくれる民生委員の方がいらつしやると思うだけで、不安や心配が減り、安心して毎日を過ごすことができます。様々な支援制度、例えば緊急通報装置を設置していますが、やはり相手の顔が見えて、話ができるということは大きいです。民生委員の方の存在というのは心のやすらぎを与えてくれます。」